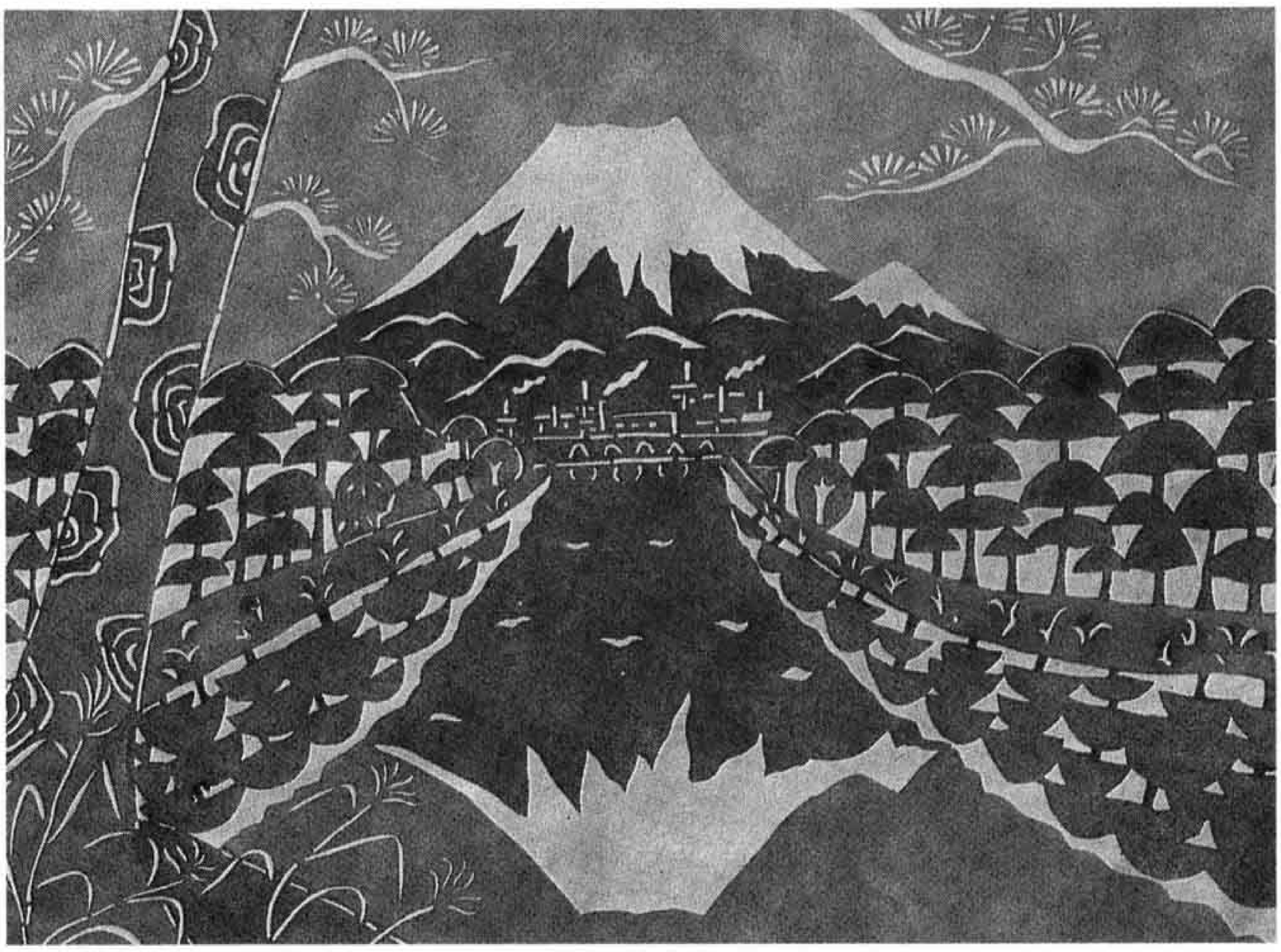

わが心のふるさと富士山 9

型染めと文
木村ふじ子さん
津田町二〇七

さかさ富士

昭和三十五、六年ころの田子の浦です。私は、おじの単車に揺られてこの場所を通り、よく鈴川へ遊びに行きました。この一帯は沼川と呼ばれ、松林に覆われ昼でも薄暗く寂しいところでした。

しかし、水面に映るさかさ富士は、とても雄大でした。その当時の風景は、今だに私の目に焼きついて離れません。山部赤人が称賛した昔と変わらず、今もその姿をとどめています。

こちら編集室

「こちら編集室」あてに、匿名のお手紙をくださった○○さん。お元気ですか。

12月5日号のこのコーナーで、「広報ふじが読まれていない、寂しい」と書いたところ、さっそく「興味深く読んでいます。頑張って」と、うれしいお手紙が届きました。ありがとうございます。

さまざまな生き方や、違った価値観を持つ人と出会える幸せ。これを大きな財産として、ことしは大きく羽ばたきたいと思います。ご意見をお聞かせください。

水ぬるむ春にふさわしい、個人で参加できる公共施設見学を計画しました。お弁当を持って一緒に行きませんか。

今回のテーマは〝水〟。かりがね堤に水との戦いの歴史を見、きわめつきの永明寺では、心静かに水と語らっていただきます。9ページをごらんになって、ぜひご参加ください。

広報ふじは環境にやさしい再生紙を使っています

発　行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地　☎51－0123　人　口　229,628人　男　114,613人　女　115,015人
編　集・総務部広報広聴課　世帯数　70,612世帯　（1月1日現在）